

チミド・ツェデンダンバエフの伝記と作品について

ラリーサ・ハルハロワ (Лариса Халхарова)

(ロシア連邦ブリヤート国立大学)

キーワード：伝記、芸術作品、伝記研究の方法論、作家、文学的遺産、芸術家、韻文、散文、短編小説、長編歴史小説。

本発表では、二十世紀ブリヤート文学の著名な作家チミド・ツェデンダンバエフ (Чимит Цыдендамбаев, モンゴル国方式の氏名は Цэдэндамбын Чимиддорж, 1918-1977) の伝記と作品の特徴を紹介する。彼の伝記と作品については、すでに部分的に書かれているが、満足できるものではなく、情報が不足している。作家の生涯と経歴を研究しなければ、作家とその作品を完全に理解することは不可能である。チミド・ツェデンダンバエフは、自身の時代の矛盾を自覚しながら、その感覚を自身の芸術作品に反映してきた。彼の芸術作品を研究することは、二十世紀のブリヤート文学史においてきわめて大きな意義がある。チミド・ツェデンダンバエフは、母国とそこに原住する民衆、自然、野生動物などに関わる繊細な抒情詩を、心の奥底から理知的かつ芸術的に創作する作家であった。本発表の目的は、ブリヤート文学における彼の文学的遺産と伝記について、その不明点を研究し明らかにすることにある。

作家の個人生活、伝記、芸術作品のジャンルを明らかにし、その時代の内包する問題の研究に注意を喚起する面で、理論的な新しい傾向が生まれている。本研究発表では、そのような伝記研究の方法論をおもに利用した（このような、作家の伝記を研究することによって、その作家の作品が創作された「証拠」を探求し、その作家の芸術作品と芸術形象の歴史的根拠を明らかにすることが可能となるという方法論は、[十九世紀のフランスの批評家] シャルル＝オーギュスタン・サント＝ブーヴ [Charles-Augustin Sainte-Beuve] が初めて提唱したものである）。作家の伝記とその芸術作品を研究するためには、科学的な方針と計画にしたがって研究を進めなければならない。

文学における伝記研究というのは、人びとの現実生活における重要な出来事についての解釈であり、歴史と文化の興味深い諸事実を表わすものである。作家とは、ただ単に興味深い事柄を書く人物ではなく、具体的な歴史的条件下における人びとの生活と闘争を芸術的な手法で描写し表現する人物を指すのである。

芸術家というのは、人びとの社会生活と精神生活に反映された品性であり、それを表出する存在であると考えられる。芸術作品というのは、自分自身の生まれ故郷、その社会生活と精神生活に反映された事物を表現する一つのジャンルである。そして、芸術作品を通じて表現された歴史的な時代と環境は、その伝記を通じて抽出することができる。